

■ 石川政太郎の記録

国立公文書館 アジア歴史資料センター（デジタルアーカイブ）の記録から /

大倉信明 2013年1月16日

1 海軍省-公文類纂-M5-7-79（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治5年11月20日（海軍省）

「甲4套大日記 主船寮え達 石川政太郎外8名出仕差免達方」

第一百八十号内 石川政太郎 山下勝次郎 石黒八左衛門 吉村金蔵 渡辺渡 小野庄作 武野市太郎 小宮亀太郎 佐柄木清吉 右出仕差免之達書於当省可相達之处当時横須賀在勤之事二付別紙九通差廻候条本人工達方可取取計候也

壬申十一月二十日 海軍省 主船寮

2 海軍省-公文類纂-M5-7-79（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治5年11月20日（海軍省）

「甲4套大日記 主船寮え達 前9名附属申付方」

第一百八十号内 石川政太郎 山下勝次郎 右附属七級工 佐柄木清吉 右附属九級工 石黒八左衛門 吉村金蔵 渡辺渡 小野庄作 武野市太郎 小宮亀太郎 右附属十級工 右之通附属可申付候尤申達相済候ハ、例之通可届出候也

壬申十一月二十日 海軍省 主船寮

3 海軍省-公文類纂-M6-8-130（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治6年2月3日～明治6年2月7日（主船寮）

「無号 主船寮届 石川政太郎外9名附属申付の件他1件」

七級附属 石川政太郎 山下勝次郎 六級附属申付候事 九級附属 佐柄木清吉 十級附属 石黒八左工門 志村金三 七級附属申付候事 十級附属 小宮亀三郎 武野市太郎 志村伊三郎 八級附属申付候事 十級附属 守田金次郎 蛙田伊兵衛 村田源太郎 九級附属申付候事 二月三日 右之通相達候此段御届及候也

二月四日 主船寮 本省 御中

鹿児島県卒 池田嘉太郎 九級附属申付候事 二月五日 右之通相達候此段御届及候也

二月七日 主船寮 本省 御中

4 海軍省-公文類纂-M6-5-127（所蔵館：防衛省防衛研究所）

明治6年10月7日（海軍省）

「甲3套送達大日記 主船寮へ達 石川政太郎外10名昇等の件」

第二千〇四号 石川政太郎山下勝次郎仕少工長候達書於省可相達之处横須賀在勤二付別紙二通差回候条一覧之上達方可被取計候也 但本人落手ノ日ヲ以至急請書差出候様可被相達候也 第

十月七日 海軍省 肥田主船頭殿 同号ノ二 附属 九守田金次郎 五小宮龜三郎 四石黒八右衛門 三志村金蔵 十蛙田伊兵衛 七武野市太郎 八村田源次郎一鈴木吉助 六志村伊三郎 二佐柄木清吉 右昇等之達書拾通差回候条一覽之上達方可被取計候尤申達相濟候ハ、例之通可被届出候也
六年十月七日 海軍省 肥田主船頭殿

5 海軍省-公文類纂-M6-8-130 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治6年10月9日~明治6年10月15日 (主船寮)

「諸届留 主船寮届 少工長石川政太郎外110名昇級の件」

第一百一号 少工長石川政太郎始百十四名工加俸被下方別紙之通相達候条此段及御届候也

十月十五日 主船寮 本省 御中

会計局回 別紙

少工長 石川政太郎 山下勝次郎 三十級加俸被下候事 少工長双 石黒八右衛門 志村金蔵 鈴木吉助 佐柄木清吉 三十一級加俸被下候事 小宮龜三郎 武野市太郎 志村伊三郎 三十三級加俸被下候事 大工手 守田金次郎 蛭田伊兵衛 村田源次郎 三十三級加俸被下候事 中工手 土井与兵衛 大川伝助 堤善助 鈴木忠八 中林卯之助 岡田安五郎 香川祢助 坂倉栄吉 今井源兵衛 柴崎茂右衛門 鈴木忠八 合原熊次郎 案原善五郎 山田惣八 大野勇蔵 板倉辰五郎 川島幸次郎 三十五級加俸被下候事 鈴木太次右衛門 高村重次郎 小林留吉 鈴木幸次郎

6 海軍省-公文類纂-M6-24-146 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治6年10月15日 (主船寮)

「諸届留 主船寮届 石川政太郎外1名への達書達方件」

第七十八号 石川政太郎山下勝次郎へ之御達書横須賀在勤二付御差廻二相成則本人へ相達御請書差出候条此段及御届候也

十月十五日 主船寮 本省 御中

7 海軍省-公文類纂-M13-31-533 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治13年2月23日 (造船所長海軍中将中牟田倉之助 | | 製綱掛五等工長石川政太郎)

「履入325 造船所届 石川5等工長母病死」

上第三十三号 石川五等工長忌御届 所員五等工長石川政太郎実母病死二付別紙之通忌届差出候旨此段御届仕候也 十三年二月二十三日 造船所長 海軍中将中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 一私実母儀愛媛県下讚州塩泡島二差出候処并程病氣罷在遂二養生不相叶本月十三日死去仕候趣郵便ヲ以申越候依之定式之忌請申候 忌五十日 二月二十三日ヨリ 四月十二日迄 右御届申出候也

十三年二月二十三日 製綱掛 五等工長石川政太郎

8 海軍省-公文原書-M13-14-360 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治13年2月23日 (造船所長 海軍中将中牟田倉之助 | | 製綱掛 五等工長石川政太郎)

「履入325 工長石川政太郎母死去忌引造船所届」

上第三十二号 二ノ二十五 石川五等工長忌御届 所員別紙之通石川政太郎実母病死二付別紙之通忌届差出候間此段御届仕候也 十三年二月二十三日 造船所長 海軍中将中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 履入第三百二十五号 一 私実母儀愛媛県下讚州塩泡島二義置候処此程病氣罷在 遂ニ養生不相叶本月十三日死去仕候趣郵便ヲ以申越候依之定式之忌請申候 忌五十日 二月二十三日ヨリ四月十二日マテ 右ヲ以届申出候也

十三年二月二十三日 製綱掛 五等工長石川政太郎

9 海軍省-公文類纂-M13-30-532 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治13年2月24日(造船所長海軍中将中牟田倉之助 | | 製綱掛五等工長石川政太郎)

「履入336 造船所届 石川5等工長墓参帰省」

上第三十三号 石川五等工長帰省御晦軍届候御届 所員五等工長石川政太郎為墓へ参帰県致度段別紙之通願出候処事実無余義次第二付願出御届候条此段御届仕候也 十三年二月二十四日 造船所長 海軍中将中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 一私実母儀愛媛県下読何頃次島御善候処并程死去者候二付而在一度為墓参帰県仕度依之往復日数ヲ除之口三週間御暇被下置御採用度別紙相願候也

十三年二月二十四日 製綱掛 五等工長石川政太郎

10 海軍省-公文原書-M13-15-361 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治13年2月24日~明治13年2月27日(造船所長 海軍中将中牟田倉之助 | | 製綱掛 五等工長石川政太郎)

「履入336 石川5等工長帰省願造船所届」

上第三十三号 二ノ二十八 石川五等工長帰省御暇聞届候御届 所員五等工長石川政太郎為墓余帰県致度段別紙之通願出候処事実無余義次第二付願書聞届候条此段御届仕候也 十三年二月二十四日 造船所長 海軍中将中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 履入第三百三十六号 一 私実母儀愛媛県下讚州覽次島へ差置候処元程死去者候二付テハ一廢外墓参帰県仕廢依之往復日数ヲ除之外三週間御暇被下置候様仕廢此段相願候也

十三年二月二十四日 製綱掛 五等工長石川政太郎

11 海軍省-公文類纂-M13-30-532 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治13年3月6日(造船所長海軍中将中牟田倉之助 | | 製綱掛五等工長石川政太郎)

「履入407 造船所届 石川5等工長墓参取消」

上第四十三号 石川五等工長帰省御暇取消之義聞届候御届 所員五等工長石川政太郎実地母死去二付墓余トシテ帰県之義聞届置候旨二月二十四日 付上第三十三号ヲ以テ御届仕候処爾後脚部ニ腫物相発シ歩行不自由ニ付前願帰暇取消之義別紙之通願出頭ニ付聞届御候条此段御届仕候也 十三年三月六日 造船所長 海軍中将中牟田倉之助 海軍卿榎本武揚殿 私実母儀死去二日岩中為墓参帰県之義過ル願濟ニ候処積アニ腫相被唯今迄見合居殆快愈仕候処未夕歩行随意ニ無之候間帰県之義@見合度候条御届出願之儀ハ一等御所消歳之度此段奉願候也

十三年三月六日 製綱掛 五等工長石川政太郎

12 海軍省-公文原書-M13-17-363 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治13年3月6日(造船所長 海軍中将中牟田倉之助 | | 製綱掛 五等工長石川政太郎)

「履入407 工長石川政太郎帰省願取消造船所届」

上第四十三号 石川五等工長帰省御暇取消之義聞届候御届 所員五等工長石川政太郎実母死去ニ付墓余トシテ帰省之義聞届置候旨二月二十四日付上第三十三号ヲ以御届仕候処爾後御部ニ腫物相発シ歩行不自由ニ付前願帰省取消之義別紙之通願出候ニ付聞届置候条此段御届仕候也 十三年三月六日 造船所長 海軍中将中牟田倉之助 海軍卿榎本武揚殿 履入第四百七号 私実母儀死去仕候ニ付忌御為墓參帰省之義過日願濟ニ候処積ア二種相発唯今シ見合候殆快愈仕テ組処未タ歩行随意ニ無之候間帰省之義ハ見合度候条過@出願之儀ハ一等御取消ヒ成下度此段付願候也 十三年三月六日 製綱掛 五等工長石川政太郎

13 海軍省-原書類纂-M14-20-20 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治14年9月1日~明治14年9月21日(造船所次長 海軍大匠司 渡邊忻三 | | 四等工長石川政太郎 | | 脚氣病院)

「造船所届 石川4等工長転地療養」

上第二百二十八号 石川四等工長転地療養願聞届候御届 所員四等工長石川政太郎義脚氣症ニ付去月二十九日ヨリ引籠療養罷在候処免角同篇ニ付本日ヨリ三週間東京へ転地加養致度段願出候処事実相違モ無之ニ付願意聞届候条此段御届仕候也 十四年九月一日 造船所次長 海軍大匠司 渡邊忻三 海軍卿川村純義殿代理 海軍大輔中牟田倉之助殿 履第二五八号 上第四百四十四号 石川四等工長転地療養再願聞届候御届 所員四等工長石川政太郎儀病氣同篇ニ付来ル二十三日ヨリ更ニ三週間転地療養之儀別紙之通願出候処事実相違モ無之ニ付願意聞届候条此段御届仕候也 十四年九月二十一日 造船所次長 海軍大匠司渡邊忻三 海軍卿川村純義殿 履入第一二六六号 一 私儀病氣ニ付東京へ転地三週間御暇願出候御許可相成本月二日出京脚氣病院治療罷在候得共免角同篇ニ付

14 海軍省-原書類纂-M14-21-21 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治14年12月8日(造船所次長 海軍大匠司 渡邊忻三)

「造船所届 村上8等出仕外3名病氣療養」

上第八拾九号 八等出仕村上伯栄外三名病氣引入之義御届 八等出仕村上伯栄 右者痔疾ニ付十一月二十六日ヨリ一週間為療養引入 三等師小林口得 右者脚氣症ニ付十月二十日ヨリ二週間為療養引入之処尚又十一月三日ヨリ三週間為療養引入同月二十四日ヨリ出勤 五等属高橋省三 履入第一六五七号 右者痺麻質斯症ニ付十一月二十九日ヨリ二週間為療養引入 四等工長石川政太郎 右者脚氣症ニ付十月十四日ヨリ三週間御療養引入之処十一月二日ヨリ出勤 前書之通各医証相添届出候条此段御届仕候也

明治十四年十二月八日 造船所次長 海軍大匠司渡邊忻三 海軍卿川村純義殿

15 海軍省-原書類纂-M15-29-59 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治15年9月5日~明治15年9月6日(造船所次長 海軍大匠司 渡邊忻三 | |

製綱掛四木工長 石川政太郎 | | 海軍軍医補 小畔養伝)

「造船所届 石川4等工長転地療養願」

上第百二十五号 石川四等株式会社長転地療養御晦願聞届候御届 所員四等工長石川政太郎義脚気症ニ付転地療養御晦ヒ下度旨別紙之通願出候処事実相違ト無之ニ付願意聞届候間此段御届候也 十五年九月六日 造船所次長 海軍大匠司渡邊忻三 海軍卿川村純義殿 受第一四五〇號 一私儀先頃ヨリ脚気症ニテ難渋死在トニ付テハ相州箱根表へ転地加養仕度候旨往返ヲ除ノ外三週間御縦ヒ下置候様仕度依之医官診断書相添此段願出候也 但発是日ヨリ十日間ハ本年賜給縦仕度其余御縦一置度此段申添候也 十五年九月五日 製綱掛 四木工長 石川政太郎 診断証 海軍四等工長石川政太郎 右者月気症ニ罹リ拙者施療之処急速治シ難リ凡ソ三週間転地加療可然致診断候也

16 海軍省-受号通覧-M17-10-33 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治17年4月12日(造船所次長海軍大匠司渡邊忻三)

「4月12日 宇佐美1等師外3名病氣引入届」

上第四十九号 一等師宇佐美平之外三名病氣引入之義御届 一等師宇佐美平三 右者寒冒症ニ付三月五日ヨリ為療養一週間引入之処同十日ヨリ出勤 五等属高桑省三 右者前症未治ニ付三月八日ヨリ為療養二週間引入之処尚同二十二日ヨリ二週間引入 四等工長石川政太郎 右者眼病ニ付三月三日ヨリ為療養二週間引入之処同十四日ヨリ出勤 五等工長山羽晋 右者氣ノ管支答兒兼神經痛症ニ付三月五日ヨリ為療養六日間引入之処同十一日ヨリ出勤 前書之通各医証相添届出候条此段御届仕候也

明治十七年四月十二日 造船所次長 海軍大匠司渡邊忻三 海軍卿川村純義殿

17 海軍省-受号通覧-M18-5-58 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治18年3月9日~明治18年3月13日(横須賀鎮守府長官海軍中将中牟田倉之助 | 造船所長海軍大佐伊東祐亨 | 製綱掛四等工長石川政太郎)

「3月13日 石川4等工長転地療養の件」

鎮兵第三六九号ノ二 石川四等工長転地療養之義御届 造船所員四等工長石川政太郎病氣ニ付転地療養之義別紙之通同所長ヨリ申出候間聞届置候条此段御届仕候也 明治十八年三月十三日 横須賀鎮守府長官海軍中将中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 受第五九八号 上第五十一号 所員病氣療養願之申牒 所員四等工長石川政太郎病氣療養之義別紙之通出願へ条御許可相成度此段申副候也 明治十八年三月九日 横須賀造船所長海軍大佐伊東祐亨 横須賀鎮守府長官海軍中将中牟田倉之助殿 私義本年一月中ヨリ眼病ニ付御届仕引籠リ養生罷在候処未夕全治癒候間東京治療仕度依テ往復ヲ除キ三週間之御服ヒ成下度医証相添此段願出候也

明治十八年三月九日 製綱掛 四等工長石川政太郎

18 海軍省-受号通覧-M18-7-60 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治18年4月6日~明治18年4月14日(横須賀鎮守府長官海軍中将中牟田倉之助 | 造船所長海軍大佐伊東祐亨 | 製綱掛四等工長石川政太郎)

「4月14日 石川4等工長病氣療養追願届」

鎮兵第五四五号ノ二 石川四等工長病氣療養追願之義御届 造船所員四等工長石川政太郎病氣未治二付引続帰京療養之義別紙之通り同所長ヨリ申出候二付聞届置候条此段御届仕候也 明治十八年四月十四日 横須賀鎮守府長官海軍中將中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 上第七十二号 石川四等工長病氣療養追願之申牒 所員四等工長石川政太郎病氣未治二付尚又別紙之通り帰京療養追願書為之出候二付御許可相成度此段副申仕候也 明治十八年四月七日 横須賀造船所長海軍大佐伊東祐亨 横須賀鎮守府長官海軍中將中牟田倉之助殿 私儀全快二付去三月十六日ヨリ三週間御取願御許可済出京治療然在候処未全治不仕候二付猶本日ヨリ三週間御取願於同府療養仕度依而医証相到達願候也

19 海軍省-受号通覧-M18-9-62 (所蔵館：防衛省防衛研究所)

明治18年4月27日 (横須賀鎮守府長官海軍中將中牟田倉之助 | | 造船所次長海軍中佐増井航三 | | 四等工長石川政太郎)

「4月27日 石川4等工長病氣届」

鎮兵第六八九号ノ二 石川四等工長病氣療養之義二付御届 造船所長四等工長石川政太郎病氣未治二付療養追願之義診断書相添へ別紙之通造船所長ト至申出候二付御届候条此段及御届候也 明治十八年四月二十七日 横須賀鎮守府長官海軍中將中牟田倉之助 海軍卿川村純義殿 上第九十号 石川四等工長病氣療養追願上申牒 所員四等工長石川政太郎病氣未治二付尚又別紙之通療養願出候二付御許可相成度此段副申仕候也 明治十八年四月二十七日 横須賀造船所次長海軍中佐増井航三 横須賀鎮守府長官海軍中將中牟田倉之助殿 私儀不快二付去三月中旬引続賜暇願御許可済出京治療罷在候処未夕全治不仕候二付猶本日尚二週間御暇ヒ下度別紙医証相添此段出願候也

明治十八年四月二十七日

20 香川県立図書館

石川政太郎著『咸臨丸渡米日記』、香川県立図書館、1959年刊。

安政7年(1860)の咸臨丸渡米の際の日記の翻刻。筆者は帆立方。
